

## 学校と家庭の架け橋

令和8年7月13日

### 「時間」に意識を向けること

6月29日、(株)ベネッセCが上半期(1月から6月)の小学生と保護者の意識調査を公表した。小学生の気になったニュースの1位は「物価上昇」だったという。「お菓子が高くて買えない」「お小遣いで買えるものが少なくなった」などのコメントが、なんだか切ない。今、グローバル(日本もその一つ)にみて、社会が大きく変化している。物価高は日本に限ったことではない。

最近テレビで、小学生は、授業で「織田信長はなぜ、本能寺で討たれたのか、友だちに説明したい。」「(Gemini)・・・」と生成AIに壁打ちしながら表現力を磨いていると言っていた。生成AIが子どもに与える影響は、誰一人としてわかっていないが授業が変化しているという。生活の便利さは、後戻りはできないことは歴史が証明しており、走りながら知見を積み上げていくのだろうが、皆さん、漠然とした不安はないだろうか。

この大きなうねりの中で、高校で多くみられがちな教師主導で、教師の努力と、素直で受動する生徒の姿勢で、生徒を惹きつけ、授業を成立させていくことは今後もできるのだろうか。中学校でもこれまでの授業では成立しないなどの悩みを聞くようになってきている。授業に面白みを感じないという(わからない、問いが無い、要因は様々だが、Geminiに聞いた方が早いなど)。高校生は、分別が付きはじめ、大人との境界線におり教師側の論理も理解し始めることから、高校生は授業が成立しないような状況を避けようとするともわかっている。

私は、宮北生が、学校(教師)から解放された時間に、どのような学び方をするのかが、とても気になっている。

アジャストタイムは、「自己調整」を促すと、始めた取り組みである。ここで、促しているのは、自分で「時間」を考えることにある。例えば、アジャストタイムに入るのは、昼休みが終わった後である。5時間目であっても、あと1分で5時間目だから準備し始めないといけなく考える。「一定の自由裁量」の「時間」に何としようかと「考える時間」が発生するのではないと思ったのである。学び方のシフトチェンジは、自ら学び方をデザインすることにあると、わたしは思う。現状は、やらされている「自己調整」での導入となってしまったことは否めない。今の様子なら、全員教室で「自由」にアジャストタイムをしても良いかもしれない。おすすめは、シエスタ、読書、探究であるとし、それ以外も可能とする。ルールは「時間」を個人のものとすること。つまり、他人と共有する「時間」ではないこと。自分を正当化するわけではないが、この変化の著しい、正解のない時代に、始めたことを柔軟に変化させることに私は躊躇しない。一方で、信念を貫かなければならないこともマネジメントに必要だと認識している。

今後、私たちは、「子ども自身が考え、選択・決定し、行動できる」ことがこれまで以上に求められる。これを保護者と共に考えたい。どのような時に「学びに向かう」のだろうか。生徒の皆さんにも一緒に考えてもらいたい。

### 「倒木」に関するお詫び

6月20日、本校敷地の大木が倒れ、地域に対して多大なご迷惑をかけてしまった。心から深くお詫びいたします。現在、校地外に倒れた場合に、危険度の高い樹木を中心に樹木医の診断をし、順次伐採することを県の支援のもと、始めています。緊急伐採を進めますので、景観の変化、騒音などご迷惑をおかけすること多々あると思います。できるだけ、ご説明をしながら進めたいと思いますが、ご理解を頂きますようお願いいたします。

樹木は、寿命の終わりが近くなると、樹冠(葉の茂る部分)が小さくなり、免疫力が落ち、カミキリムシや腐朽菌(ふきゅうきん)(キノコ類等)が多く見られるそうです。樹木の寿命はそれぞれのことですが、樹木は枯れて次の世代の栄養素に戻っていくことで寿命を閉じるのだそうです。樹木も倒れて、ご迷惑をかけてしまう前に、次世代のために頑張りたいと思っています。学校全てのものに、配慮が足りなかったのだと戒めになりたいと思っています。倒木に関してはHPで公開していきます。



## 富士宮北高グラウンドのグリーンフィールドプロジェクト

今、富士宮北高校で一つのプロジェクトが動いている。90周年記念事業の一環として、学校のグラウンドを芝生化しようという取組である。富士宮北高の広大な校地は、多感な青年期にとって、安定と癒しを与える大切な要素だと私は思っている。県立高校とはいえ、この校地は、地域（市など）からも大切にされる存在であってほしい。そして、地域のスポーツの拠点として、いろいろな世代の人たちから愛される場所になってほしい。そんな願いを持っていた。偶然、他校で暑熱対策や怪我予防のために芝生化した情報もあり、サッカー部の生徒、保護者、教師が立ち上がって、グラウンドをグリーンフィールドにしようと動き始めたのである。芝生化は、芝生の養生、夏冬の入替え、水まき、整備と多くのメンテナンスを必要とする。始めるより、長期的なランニングコストの大きさから学校では踏み出さないケースが多い。それでもサッカー部の保護者や地域のサッカー協会、多くのOBの方からの応援を背景に一步踏み出した。わたしは、そのチャレンジこそが成長のきっかけだと思うし、「生徒に、チャレンジしろ」と私たちは言うのだから、私たちもチャレンジしたい。

6月7日、本当に多くの保護者が参加してくれて、このプロジェクトが始まった。保護者と生徒、そして教師の姿に、私はとても感動した。芝生は、静岡県の芝生研究所の指導を受けながら、清水エスパルスのユースの小中学生が育てたポット苗を購入して植え付けた。7月13日現在、梅雨時期の雨もあって少しずつ緑が増えている。グリーンフィールドが完成し、素晴らしい状態にできたら、高校生の使わない時間には、地域の憩いの場所として愛してもらいたいと、そんな夢を描いている。

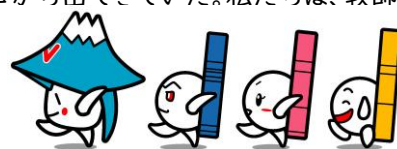


## 生徒たちにつけたい力① 宮北 base 「心を律する力」

R7 年度、先生から見た、宮北生に求めたい人物像を話し合った。その意見をいくつかお伝えしていきたい。

「明るく元気な姿」「自己分析をしっかりする姿」「人として最低限求めたい姿」がその人物像の1つである。

これらは、なぜなのか。自分自身を理解してほしい。倫理観を持った大人になってほしい。精神的な逞しさ、精神的な回復力（レジリエンス）を持っていてほしい。そんな願いが先生たちの口から出てきていた。私たちは、教師であるために、「教科」の免許を持つ。しかし、日本では、「教科」の免許はスタートに過ぎず、自己研鑽をし続け、今にあった教育をできる力をつけ、さらには、子どもの社会化を保護者から託されている。その一番の根幹に「心を律する」という力を身につけさせたいと思っていることご理解いただきたいのである。



## 「倒木」に関するお詫び2 ～学校と家庭の架け橋

倒木のあった日、雨が降り続く中、道路の封鎖もあって長時間の復旧作業が行われた。その日、私含めて学校関係者（事務長のみ駆けつけられた）は直ちに詳細の状況が情報として入らず、富士宮市（道路課）に対応いただくというご迷惑をかけた。その時に、現場に駆けつけ、その場を見守ってくれたのは、清 PTA 会長、牧野元 PTA 会長である。緊急伐採も、牧野さんの一声で実施できたのである。学校として、こんな幸せなことはない。私は、本当に恥ずかしがらずに、困ったら教師だけではなく、PTA の力を頼ろうと、自分たちの力のなさを反省しつつ、大切な架け橋を得た気持ちになった。だからこそ、それに甘えることなく、全体をしっかりと考えて管理しなければならない。PTA のみなさんに恥ずかしくない仕事をしていかなければならない。

このこともあって、私は、これから「保護者と校長が語る夜カフェを開催したい」と思っている。また案内します。